

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1492700032
法人名	木村貿易 株式会社
事業所名	三浦市総合福祉センターグループホーム第2
訪問調査日	平成21年1月19日
評価確定日	平成21年5月19日
評価機関名	福祉サービス第三者評価機関しょうなん 株式会社フィールズ

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日 平成 21年 1月 30日

【評価実施概要】

事業所番号	第1492700032号
法人名	木村貿易有限公司
事業所名	三浦市総合福祉センター グループホーム第2
所在地	神奈川県三浦市南下浦町菊名1258-3 (電話) 046-888-8451

評価機関名	福祉サービス第三者評価機関しょうなん株式会社フィールズ		
所在地	藤沢市鵜沼橋1-2-4 クゲヌマファースト3F		
訪問調査日	平成21年1月19日	評価確定日	平成21年5月19日

【情報提供票より】(平成 20年 12月 1日事務所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18年 10月 1日			
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9人	
職員数	17人	常勤 2人	非常勤 15人	常勤換算 5.4人

(2) 建物概要

建物構造	(鉄筋コンクリート)造り
	1 階建ての (1)階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	42,000 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 130,000 円	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	370 円
	夕食	430 円	おやつ	200 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要 (1月19日 現在)

利用者人数	9 名	男性	4 名	女性	5 名
要介護1	1 名	要介護2	名		
要介護3	4 名	要介護4	3 名		
要介護5	1 名	要支援2	名		
年齢	平均 77 歳	最低	65 歳	最高	85 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	三浦市立病院、三浦診療所
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

この施設は、京浜急行線三崎口駅から城ヶ島、油壺、三崎港方面行きバスで約5分の引橋バス停下車1分の野菜畑に囲まれた自然豊かな環境に恵まれた眺望の素晴らしいグループホームです。建物は、県の保養施設を三浦市社会福祉協議会が買い取り、その一部を当企業体が賃借し、グループホームを運営しています。このグループホーム第2は、ユニット数が増加したために、平成18年にもともとあったグループホームから分離独立した施設です。
居室は明るく風通しが良く、また、眺望も優れていますが、居間兼食堂が県の職員の寮を改造した関係で、二ヶ所に区切られて多少狭く感じられます。
利用者の大半が車イス利用者ですが、気候の良い時にはホームの周辺で外気浴を楽しんだり、敷地内の野菜や栗、みかんなどを収穫し、ゆったりと過ごしています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回が初めての外部評価です。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者、ケアマネジャー、看護師などが中心になって自己評価を行っております。今回の自己評価での気づき、外部評価を参考にし、改善を図り、サービスの質の向上につなげようと考えています。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>今年度は運営推進会議は開催されませんでした。定期的に会議を開催し、利用者の要望、意見を汲み取り、サービスの質の向上を図る事が望まれます。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>面会時に家族から意見や要望、苦情を伺うようしていますが、家族からは、未だこれといった、意見や要望、苦情が出てこない状況です。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>同一建物の社会福祉協議会で主催している、夏祭りや、盆踊りには参加していますが、自治会には未加入です。老人会、福祉協議会等地域にある諸団体と積極的に交流、交歓するなどの地域の一人となる取り組みとして行動が期待されます。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域に溶け込み、利用者の命と尊厳を守ることを理念とし、隣接の同一法人が運営する「三浦市総合福祉センターグループホーム第1」の設立時に、管理者と職員で定めた理念を継承しています。		今までの理念に加え、事業所独自に職員全員で作りがけしていく事も期待されます。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関の見やすい所に理念を掲示し、職員の共有化を図っています。また、日々の利用者との係わり合いの中で実践に活かすよう配慮しています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の社会福祉協議会が主催する盆踊りや夏祭りなどには参加しているものの、自治会には未だ加入していません。		早期に自治会に加入し、老人会などの近隣の諸団体との交流を深め、地域で孤立することがないような配慮が望まれます。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回が初めての自己評価で、管理者、ケアマネジャー、看護師などを中心に自己評価を行っています。自己評価、外部評価を参考にして改善を図り、サービスの質の向上に努めようとしています。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は平成19年度には3回開催していますが、今年度は3月にグループホーム第1と共同で開催する計画です。		運営推進会議は、利用者に対するサービスの実情と説明や、地域との連携を構築する良い機会です。定期的開催し、地域と共に支えていく事も期待されます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者、地域包括支援センター、民生委員などは常に連絡を取り合っています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族が面会に来所した時に、利用者の健康状態や、暮らしぶりについて報告しています。毎月1回請求書を郵送していますが、金銭管理については、基本的に預かり金制度を採らないことにしていますので報告はありません。家族会の設立を模索しています。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会のおりなどに家族から意見を聴くようにしていますが、家族からは、意見や要望、苦情は殆ど出ていないのが実情です。今回の家族無記名アンケートのご家族からの回収はありませんでした。		ご家族と連携しながら事業所のより良い運営に向けた取組に関して理解と協力を働きかけることも期待されます。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	非常勤者の大半が隣接の「グループホーム第1」と当ホームの仕事を兼務していますが、可能な限り同じ介護者が担当するように施設長は配慮をしています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の研修体制は未整備です。常勤者は勤務ローテーションの関係から研修を受けにくい状況になっています。		早急に、職員育成計画を作成、実施し、資格にあわせた体制を構築し、職員にやりがいと生きがいを与えて職員定着率の向上と知識や技術の向上につながることを期待されます。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は定期的開催される市のグループホーム協議会に出席し、情報の交換を行っています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>市福祉課および市内の病院からの利用者入居の依頼がありますが、本人、家族に当施設を訪問、見学して頂き、雰囲気馴染んで貰い、安心、納得の上で入居しています。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は、利用者の立場になって、喜びや、悲しみを共感し、理解するような支援に心がけています。また、人生の先輩から、歴史、文化、暮らし方などを教わっています。日中は殆どテレビを観賞することが多いですが、全員で体操、童謡、ナツメロ、百人一首などで楽しんでいます。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者一人ひとりの心身の状態に応じて、常に声をかけをしながら見守っています。思いを伝えにくい利用者についても、その思いを押し量りながら接しています。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用者本人、家族等の思いや意見を反映させながら、スタッフで話し合い、介護計画を作成しています。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>利用者の体調に変化があった場合には、その都度見直しを行い、職員間でその状況を把握しています。</p>		<p>特段の変化が見られなくとも定期的にカンファレンスを行い、現状に即した介護計画に見直すことが期待されます。</p>

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者本人、家族等の状況により、通院送迎の支援を行っています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの協力医療機関からの往診もありますが、入居前からのかかりつけ医を継続している利用者もいます。隣接する同一法人の「グループホーム第1」と兼務している看護師もあり、利用者の健康チェックを行っています。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	既に看取りの実績もありますが、利用者本人や家族、医師と話し合いながら、最善策を考え、方針を皆で共有しています。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者一人ひとりの誇りや尊厳を大切にしています。アットホームな雰囲気を大切にしながらも、職員は言葉掛けや接し方に注意を払っています。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの思いや希望を大切に考え、支援しています。庭への散歩、TV鑑賞、体操、ゲーム等希望に沿った支援をするようにしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は隣接する同一法人の「グループホーム第1」で調理されたものを、ホーム内で盛り付け、配膳しています。一人ひとりの食事形態に合わせ、刻み対応もしています。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	現在、重度の入居者も多いため、入浴日をおおよそ決めて支援しています。入浴嫌いの方には声かけを工夫し、誘導しています。元々は寮であった建物なので、浴室は広めの作りになっています。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活に張り合いを持って過ごせるように、洗濯物たたみなど役割を持って行っている利用者もいます。ナツメロを歌ったり、トランプをしたり、楽しく日々を過ごせるように支援しています。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	各居室のベランダの下は建物を囲むように遊歩道になっています。絶景の眺めの中、ここで散歩や日光浴を楽しんでいます。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	建物の構造上、危険回避のためもあり施錠していることもありますが、入居者の外出希望があれば、職員が同行し、出入りは自由に出来ます。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署との協力で、館内全体と全ユニットで避難訓練を一昨年行いました。今後も年に1度は合同で行う予定です。災害時の避難については、職員間で経路等について確認し情報を共有しています。		今後は、夜間や地震等も想定したり少人数での対応訓練などを行い、記録と今後の具体的な支援体制の整備が期待されます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は「介護記録」に記録されています。水分量については一日1,100ccくらいを目安にしており、お茶、コーヒー、ココア、アイスクリームなどが用意されています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	多くの利用者は居室よりも一日の大半をTVを観たりしながら、食堂兼リビングで過ごしています。建物は横に長く、浴室、トイレへの移動がしやすい作りになっています。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室にはそれぞれベランダもあり、日当たり、風通しもよく快適な居室空間となっています。		利用者本人の希望にもよりますが居心地よく過ごせるよう使い慣れたものを持ち込んだり、好みの装飾等を取り込まれる工夫の支援もよいと思われます。

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	三浦市総合福祉センターグループホーム2
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	三浦市
記入者名 (管理者)	大庭民子
記入日	平成20年12月1日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>		
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>		
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>		地域の自治会等にグループホームの存在意義や利用者の地域の中で生活する大切さを理解していただけるように説明をしていきたい。
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>		地域の自治会等にグループホームの存在意義や利用者の地域の中で生活する大切さを理解していただき、地域の方が気軽に立ち寄れるグループホームとしていきたい。
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>		地域の社会資源・行事を把握し、グループホームの利用者・職員がどのように参加し、関われるか考えていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	まだ取り組みはなされていない。		地域の高齢者の生活の実態を把握し、どのように関われるか考えていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義・目的を伝え、全員で自己評価に取り組むようにしている。		今回の自己評価・外部評価を機に改善に向けて具体的な検討や実践にたねげる努力をしていきたい。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、平成19年4月に初開催されており、利用者・市職員・民生委員・利用者家族が参加し、継続的に行われている。会議では運営報告、サービス利用状況などについて意見交換が行われ、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	利用者の担当ケースワーカーとの情報の共有をはかり、課題・解決を図っている。		区自治会や地域包括支援センターとも連携がとれるような活動をしていきたい。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	利用者に成年後見制度を利用している方がいらっしゃるため、職員全体ではないが、制度を理解できている職員はいる。		職員全体が地域福祉権利擁護事業や成年後見制度を理解できるように制度の説明や研修会への参加ができるように考えていきたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者より虐待の防止について職員に徹底しているが、関連法に学ぶ機会はない。		虐待防止に関する研修等参加できるようにし、虐待防止に理解とを深めるようにし、支援へと結びつけていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時には時間をとって丁寧に説明をおこなっている。不明な点や疑問点等にも丁寧に説明を行っている。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日常の利用者の言葉や態度からその思いを察する努力、意見を言しやすい関係作りに努め、申し送りや会議等で話し合い、運営や日々のケアに活かしている。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>ご家族の面会時や家族への連絡時などに現在の状況の報告を行い、家族との連携をはかっている。</p>		<p>家族会をつくり、家族の想いをケアに反映させていきたい。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご家族の面会時や家族への連絡時などに現在の状況の報告を行い、家族からの希望も聞いている。加須からの意見・要望は申し送りや会議等で話し合い、運営や日々のケアに活かしている。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>常勤職会議を開き、役職員との意見交換を行い、運営状況の報告をしあい、共有化を図っている。また、仕事の合間に随時意見を聞くように心がけている。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>所長は通常のシフトには入っておらず、夜間や利用者の状態変化に応じた柔軟な動きがとれるようにしている。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>各ユニットの勤務はできるだけ同じ介護者があたるようにし、利用者の不安感を、できるだけなくすように努めている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	まだ取り組みはなされていない。		今後、職員用の各種研修を考え実施していく。また、外部研修への参加も積極的におこなっていく。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム連絡会へ参加をし、情報交換を積極的に行っている。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員の意見をよく聞き、ストレス軽減に努めている。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	常勤職会議を開き、役職員との意見交換を行い、運営状況の報告をしあい、共有化を図っている。また、仕事の合間に随時意見を聞くように心がけている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	管理者が事前にご本人と会い、生活のご様子や思いを受け止め、他の職員にもご本人の状態・思いを受け入れられるような関係づくりに努めている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族の話をゆっくりと聞き、その思い等を受け止め、自分たちがどう対応できるのか話し合い、安心してサービスを利用してもらえるようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族の思い・状況等確認し、受け止め、ご本人・ご家族が安心を得られるよう必要なサービスにつなげていける対応をとっている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	まず、ご本人・ご家族に見学に来てもらい(必要ならば何度でも)雰囲気等をつかんでいただき、安心感を持ってサービスを利用していただけるようにしている		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	常に相手の立場にたって考え、不安・喜び・楽しみを共感し、理解しながら共に支えあう関係作りに努めている。また、利用者から教えてもらうことも多く、教えてもらったことを大切にしている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者の様子や思いを伝えると共に、家族の思いも受け止め、ご本人もご家族も安心してサービスを利用していただけるよう協力関係を築いている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	常にご本人・ご家族の思いを受け止め、日ごろのご様子は、こまめに報告・相談をしながらご本人・ご家族が気持ちよくいられる様に心がけている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前の友人。知人と気軽に会えるように職員も声かけや働きかけをしている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係性を注意深く見守り、職員が調整役となり、利用者同士が支えあえるよう、関係が円滑になるよう働きかけをしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービスの終了した方には、その後の様子を聞いたり、相談にのったりと、必要時にフォローができるようにしている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1.一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	発する言葉や態度・表情からその思いを押し量り、耳を傾け、本人の暮らしへの希望にそえるようにしている。また、ご家族からの情報も大切にしている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご本人・ご家族から聞き取るようにしているとともに、日々の会話やご家族・知人とのコミュニケーションを通して把握していくように努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	職員同士で情報を共有しながら、お一人お一人の生活のリズムを把握し、出来ることを少しずつ見つけながら、その人の全体像の把握に努めている。		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々の関わりの中で、思いや意見を汲み取り、反映させるようにしている。		常に情報収集を怠らず、画一的な介護計画にならるようにしていく。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状況変化に伴いその時々で職員間で話し合い、対応し、介護計画を作成している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の暮らしでの発見や言動・体調を個別に記録し、職員は常に目を通すようにし、情報を共有している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご本人・ご家族の状況に応じて、通院や外出等の支援を柔軟に対応し、個々の満足を高めるようにしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民謡や朗読ボランティアに協力を依頼し、ホーム内で利用者に対し、支援活動をおこなっていただいている。		今以上の多種のボランティアへの呼びかけを行い、協力を求めていく。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	まだ取り組みはなされていない。		必要に応じて介護保険外の生活支援サービスを受けられるように支援していく。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとの情報交換を行い、入居希望者やその他の情報を交換している。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医での医療を継続してもらっている。基本的にはご家族の同行受診をお願いしているが、できない場合は職員が同行している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症の症状が今までの状態と異なっていたり、進行した場合は専門医の受診を行う。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	医療連携体制加算をとり、ホーム内の看護師や訪問看護ステーションとの連携をとり、医療面での相談・援助を行ってもらっている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には、ご本人の支援方法に関する情報を医療機関に提供していき、入院後は回復状況等を確認しながら速やかな退院支援へと結びつけている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	状態の変化があるごとにご家族の気持ちやご本人の思いに注意を払い、本人にとってどうあったら一番よいのかを話し合いながら方針を決めていく。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	利用者によりよく暮らしていただくために、常に利用者の気持ちを大切にしながら、かかりつけ医の意見を聞きながら、ご家族と話し合いを重ねながら、準備をしていきたい。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	新しい住まいでもこれまでの暮らしの継続性が損なわれないように、これまでの生活環境や支援の内容、注意が必要な点等情報を提供していく。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	他の利用者や外来者にプライバシーを損ねない言葉かけや対応の徹底を会議や日常の場で徹底している。	
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	何事も押し付けることはせず、その方の状態に合わせて、自ら決定してもらうよう支援している。	
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、お一人お一人の状態に合わせて、気持ちを尊重しながら、散歩・余暇活動等柔軟に対応している。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	基本的に着替えはご本人が行っており、職員は見守りや支援が必要な時にお手伝いさせていただいている。理美容は訪問していただき行っている。	
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理の盛り付け等は利用者で利用者の方が一緒にできるようなおこなっていて、食事を楽めるようにしている。	
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	ご本人の希望する飲み物をお出ししている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	尿意のない方へは、排泄表を使用し時間を見計らってトイレへお連れし、トイレでの排泄を支援している。また、ウォシュレットを使用し、気持ちよく排泄できるように支援している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回入浴を実施し、入りたがらない方には声かけを工夫し、気持ちよく入浴していただけるように支援している。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	お一人お一人の状態に合わせて、不安を取り除き安心して休息したり、よく眠れるように声かけを行い、支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	それぞれの個性を活かし、お願いできそうな仕事を頼み、自分の役割として自信と張り合いを持っていただけるよう、感謝の言葉を伝えている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	まだ取り組みはなされていない。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ご本人の気分や状態・希望に応じて悪天候でない限り散歩等を行う。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご家族・知人と共に外食・外出をされている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人・ご家族の希望により電話は自由にかけて取り次いだりしている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族や知人がいつでも訪問しやすいように、職員は来訪しやすい雰囲気づくりをしている。また、ゆっくり過ごしていただけるよう配慮している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は、身体拘束によって利用者が受ける身体的・精神的な弊害について理解し、拘束のないケアをおこなっている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中外出したようなうすを察したときには、さりげなく声をかけて同行できるようにし、自由な暮らしを支援している。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜共に職員は常に見守りやすい場所において、様子や物音を敏感に察知できるよう、プライバシーに配慮しながら安全に配慮している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状況に合わせて必要な物品を持っていただいている。また、ご本人が所持していることを理解している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人一人の状態を把握し、物の配置や食事の摂取方法等工夫に取り組んでいる。また事故やヒヤリハットのあったときには報告書を作成し、今後の予防について検討し、防止に取り組んでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	持病を把握し、初期対応としての薬の使い方等確認している。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	非難等については、立ち上げ時に職員間で経路等確認しているが、訓練は定期的に行えていない。		訓練を定期的に行い、災害時に非難できる方法を身につけていく。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	事故等をご家族に報告、説明を行い、利用者の力の発揮を抑えることのない自由な暮らしを支えるための支援方法を説明し、理解がえられるように努めている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェックと普段の状態を把握しながら、常に顔色や様子に注意し、体調の変化を見逃さないように注意している。変化時にはバイタルチェックを行い、報告・共有し、状況に応じ医療機関の受診につなげている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	出された薬については薬局の説明書に目を通し、理解していくと共に、服薬時にはきちんとふくやくできているか確認している。また、日常の状態を把握し、状態変化を見逃さないようにしている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	一人一人の排便状況を把握し、毎日、簡単な体操で身体を動かしてもらったり、入浴・ヨーグルトや牛乳・繊維質のある食材をとってもらう等工夫している。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後声かけを行い、一人一人の能力に応じた見守り・介助を行っている。また、定期的に入れ歯の消毒も行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	大まかに食事や水分摂取量を把握し、職員で情報を共有している。好みのものを把握し、摂取量が少ない方には、好みのもので摂取していただくよう配慮している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	日ごろより利用者・職員共に手洗いの励行を徹底し行っている。またヒスコールによる消毒等で予防を徹底している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板や布雑巾等は毎日漂白・消毒し、定期的に冷蔵庫の掃除・点検を行い清潔を心がけている。また、毎日食材の買い物を行い、新鮮で安全な食材を使用するようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	まだ取り組みはなされていない。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ソファを置き、思い思いにくつろげるような空間をつくっている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを置き、思い思いにくつろげるような空間をつくっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の使い慣れたものをそれぞれの生活スタイルに合わせて持って来られ、居心地よく過ごせるようにしている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	個々の状況にあわせて温度調整を行い、日に何度か換気を行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	家具の配置や干し物をするときなどの高さに工夫し、常にチェックし、安全確保と自立への配慮をしている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	個々の状況にあわせ、何が原因かを分析し、ご本人の好きなものを目印にする等混乱のないように工夫している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	まだ取り組みはなされていない。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		ほぼ全ての利用者の
			利用者の2/3くらいの
			利用者の1/3くらいの
			ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		毎日ある
			数日に1回程度ある
			たまにある
			ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		ほぼ全ての家族と
			家族の2/3くらいと
			家族の1/3くらいと
			ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、活き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)